



このまま人口が減り続けると、働き手が足りなくなってしまうよ!!

### 将来の労働力不足と 社会保障制度への懸念

戦後、我が国の総人口は増加を続け、1967年には初めて1億人を超えましたが、2008年の1億2,808万人をピークに減少に転じています。今後、人口減少と少子高齢化の急速な進展にともない、生産年齢人口(15歳から64歳)の割合の予測は平成26年の約61%から平成72年には10ポイント低下の約51%となっており、将来的な労働力不足が懸念されています。

また、ニーズの多様化やグローバル化による産業競争の激化などを背景に、働き手としての人材の多様性が求められています。そのような中、パート、アルバイトなどの非正規労働者の増加をはじめとする雇用の不安定化や社会保障の持続可能性などの課題についても解決に向けた取り組みが必要とされています。

### 特集

# いい仕事しよう。 いい人生しよう。

～男女が手を取りあって実現する「ワーク・ライフ・バランス」～

国内における15歳から64歳までの女性の就業率が、昭和50年の約49%から平成26年の約64%へと増加するなど、女性を取り巻く環境は大きく変化しています。それにもかかわらず、出産・育児を理由として特に非正規雇用の女性が離職する傾向にあるなど、女性の社会参画はそれほど成果を得られていないのが現状です。

また、依然として存在する「夫は仕事、妻は家庭」男性は主要な業務、女性は補助的業務」という固定的な性別役割分担意識や様々な社会制度・慣行も女性の社会参画を困難にする要因の一つになっています。潜在している女性の力を最大限に発揮することで、企業活動、行政、地域などでの多様な価値観や創意工夫、社会全体の活力の創出などが期待されています。

### 女性の社会参画と活力の創出



女性が社会に出やすい環境を整備する必要があるんだね!!

既成概念にパンチ!!

### 今だからこそ考えたい 仕事と生活のバランス

人口減少と少子高齢化の急速な進展にともない、将来的な労働力人口の減少が見込まれています。そのような中、働きたい人が仕事と子育てや介護などとの選択を迫られずに働き続けられることは、地域社会の発展や経済の活性化のためにも、とても重要です。

また、長時間労働の削減や、ライフイベントに対応した多様な柔軟な働き方は、ゆとりある家庭生活や地域活動への関心を高めるとともに、生産性の高い持続可能な社会の実現のために大切なことです。

すべての人が、それぞれの能力を十分に発揮しながら仕事と生活のバランスをとることが、できる環境づくりに向けて、今、どのような取組が求められているのでしょうか。

### ゆとりある豊かな社会の実現のために

「自らの意思によって働き、または働こうとする人が、その思いを叶えることができる社会」は、「多様な生き方や働き方が可能な、ゆとりのある豊かな生産性の高い社会」の実現のために大切なものです。

長時間労働の抑制や育児・介護休業法などの各種制度の活用とあわせて、柔軟な労働環境の整備を図るなど、男女が共に仕事と子育てや介護などを両立できる社会づくりに向けた取組みが求められているのではないのでしょうか。



次のページでは、新しく制定された法律や大川市の現状などを紹介します!!

